

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1194300016		
法人名	有限会社 とちのき		
事業所名	グループホーム紙ふうせん		
所在地	埼玉県本庄市今井1325番地1		
自己評価作成日	平成22年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-">http://www.kohyo-</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	プログレ総合研究所		
所在地	さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2階		
訪問調査日	平成22年3月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当ホームでは、入居者様がメリハリがあり、楽しい生活を送る事ができるように、食事に関しては、入居者様の好き嫌いを細かく把握し、楽しんで食事ができるよう考えながら献立を立てています。居室やホールには、季節感を実感できるように入居者様が作成した塗り絵やイベントの写真などを飾っています。各ユニット毎に季節ごとの行事を計画したり、ホーム全体で行う行事等も取り組んでいます。また、簡単な運動で体を動かす取りくみもしています。花壇や野菜を植える事ができる場所を作り、物作り等の楽しみや喜びも味わうことができます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

全職員が利用者の方々に対して、自分達ができることは何かを常に考えて行動をしており、行事、イベントの催し物に対してはホーム一丸となって楽しめる雰囲気作りを心がけている。同敷地内にあるデイサービスと、合同のイベントが楽しめる環境にも恵まれ、隣接地の保育所との関係はとても良い。家族の参加協力もあり、その人らしく日々安心して安楽に暮らすことが出来る礎には、困難を笑顔で乗り越えてきた職員の頑張りを、垣間みることができる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を共有し、その人らしく生活出来るよう心掛けて努力している。	大きな文字でリビングに掲示、全職員は勿論利用者、家族にも理念を理解して貰えるように提唱している。その人らしさを尊重し生きがいを見つけ出し、意欲に繋ぐことができるような支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報など1人1人に配り、地域の情報を知る。隣の保育園の行事に参加している。	隣接地に保育所があり、互いの行事の参加体制は整っているが、近隣に民家が少なく馴染みが薄い。散歩時には挨拶を交わすこともあるが、定着感は低いという現状が見られる。	地域との関係を強化していく方向性を前面に出し、自治会長、民生委員の協力を得て近隣の民家と信頼関係を築けるように努力をしていきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていないので、今年から行ってきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で家族の方、自治会長に報告し、意見を頂きサービスの講じように努めていきたい。	自治会長、民生委員、家族の協力があり、率直な意見を聞くことができ生活面の改善に繋がっている以前ユニット毎の献立だったが全ユニット同一献立になり行事の際には分担調理が可能となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の介護担当者等に連絡をとり、運営推進会議に出席を案内している。運営推進会議の結果を提出している。	運営上、不明な手続き等、相談できる関係は維持出来ており、季節により研修の案内、指導を受けることができる。運営推進会議の案内を継続していく努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より身体拘束ゼロの手引きを利用し、職員全体で身体拘束をしないケアの徹底を図る。	立ち上がり時、必要不可欠な利用者1名ベッド柵を家族と相談のうえ設置している。言葉の抑止、行動の制止に繋がらないように拘束しない意識を持ち支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に精神的、肉体的虐待のないようにミーティングを行い、全職員が防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っていないので今年から行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約前に見学して利用者・家族に十分説明をし、理解納得もしている。契約も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席して頂き、意見・要望を聞き入れている。面会時には、意見等を聞いている。	家族面会時に、利用者個別支援記録を開示しており、本人と家族の意向を確認し、ケアの実践に繋げている。毎月担当者が自筆の手紙にて利用者の日々の様子を知らせており、とても喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上、必要に応じて随時ミーティングを行い、意見・提案を聞き、反映させている。	日々のケアの中での気付きを、全職員メモをとり業務改善に繋げている。ユニット別、合同会議を随時開催できていて、職員間の相互協力関係が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤め始めている。日々の業務態度や直接現場の様子を見る事で今後に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、必要な経費、職員への指示を管理者へ出し、研修の機会など設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今まで同業者との交流を設けられずにいたが、今後は研修会などを設けて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各入居者に担当者を設け、入居者・家族の意見を聞き、安心感を高める。個々で対話の機会を設け、関係作りの確保に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族・入居者の方が、問題にしている点・不安に思う点を確認し、ニーズの聞き入れを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を責任者・ケアマネで確認し、説明を行い、他のサービスの案内や紹介も行っている。家族様と本人が共にどのように過ごしたいか支援方法を考える。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・買い物当を一緒に行っている。本人と一緒に考え生活の楽しみを見つける。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低1回の面会をして頂けるような仕組み作りを行っている。家族様の希望により外出・外泊して頂ける行事には家族参加を促している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に馴染みの物を持ってきて頂いたり、友人の面会も受け入れている。	友人知人の訪問は、常時歓迎できる状態が維持できている。職員も時折会話に参加し、談笑の場でゆったりとくつろいで貰える様、細かな配慮を心掛けて利用者に合わせた支援を行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの生活の中で中心となるホール・テーブル席は本人の意思・意向・相性を見て、トラブルや訴えがあれば、随時対応している。レクなど行い和をもつ。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	記録類を補完し、必要に応じて情報提供・相談に応じられるようにしている。入院になった場合は、お見舞いに行かせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者主体の目標を立てて、希望・意向の把握に努めている。困難な場合はミーティングを使い話し合いを行っている。	全体的にはADLの低下を防ぐ対応を全職員が周知している。個々の想いの把握に努めていく為の関わり方は性格、生活歴等考慮して自己決定の判断が負担なくできるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、利用者および家族様から生活歴・過去の体験などを聞き、希望の把握に努めている。レクの参加も本人の意思を尊重している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の過ごし方、心身の状況は個人記録に細かく記録。日頃と違った行動や変化は業務日誌に記載し申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なプランの見直しとミーティングを行い、スタッフ全員で意見・気づきを報告。家族の方には、プランの見直し時には面会確認をして頂いている。	希望、要望を取り入れ適正なモニタリングを実施している。職員はケアの振り返りから意見を出し合い、全員で課題分析を行なっている。又、行動の理由も情報を確認したうえで計画を作成し、家族に説明同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・夜間業務日誌は日々の様子が分かるよう個々のケース記録には細かな様子も記入、会議録・連絡ノートで情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療・訪問理容室など本人の状況により対応し、通院介助等も行って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフと散歩・買い物を行い日々の生活の楽しみを見つける。ボランティアの訪問などイベントの実施を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人かかりつけの病院・若しくは、月2回の応診、必要に応じて専門医療機関への受診を行っている。	往診医対応と、定期的な家族対応受診に分かれている。認知症専門医の家族受診も行われている。緊急の場合には迅速にホーム対応にて受診が出来る体制があり、安心して生活出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っていません。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーの提出にて状態の生命報告。入院時可能な限り、面会に行き、状態の確認を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の方の状態の変化に応じて、主治医・家族と相談、話し合いをし方針を共有している。	入院、退院時に今後のケアの方向性について利用者、家族、主治医と相談を行なっている。現管理者に代わり、終末期の説明を含めた対応について、再構築を行なっている。	ホームが新体制になったこの機会に職員の終末期ケア研修を実施していきたい。何時看取りケアが始まっても、良い体制を構築し利用者、家族、職員が安心して日々の生活が出来るように改善していきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを基に素早い対応を行っている。これからは、定期的に講習会等の参加を行う。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2名の防火管理者を配置している。今年から避難訓練を定期的に行っていく予定。	年2回の訓練が実施出来ておらず、訓練経験のない職員は不安を感じている。地域性を考慮し援護の相互協力の確認、避難誘導方法の体験を早急に考えていきたいと思っている。	災害時の職員の役割分担、避難ルート、緊急連絡体制等、確認しなければならない事に対しては早急に検討し災害訓練の実施に向けて精鋭努力していきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の生活歴を織り交ぜた会話。言葉かけの配慮を行っている。	家族から昔馴染みの呼称で良いという了解を得ている。職業名、役職名で声かけすると。ケアがスムーズにいく事もあり他人行儀にならないよう、生活歴を基に心地よい声かけを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクの参加時、声掛けをし、参加の有無を決定して頂いている。おやつ時に飲み物・おやつを選択をして頂き、楽しんで自己決定をして頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を通して、自由に過ごして頂いている。草花の世話をしたりして楽しんでいる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居類に関しては、本人が出来る方には自分で決めて頂いて、衣替え等、衣類の管理担当スタッフがやっている。2か月に1度は訪問理容室が来て、散髪。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳が出来る方には行っていただいている。	調理の下ごしらえ等包丁を使う事ができる人には安全の見守りを行ない、出来ることの継続支援をしている。洗濯干し、取り込み、食器片付けの協力が得られ、希望の献立、食材は随時対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事をして頂けるよう、声掛けを行い、きざみ食等の配慮、一部介助を行ったり、スプーンでの対応を行っている。食事量の記入、水分量の記入を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕と自ら行える方には声掛け。義歯の洗浄の声掛け。介助が必要な方には、スタッフが口腔ケアを行い、口腔内の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を行っている。排泄時のサインを見逃さないようスタッフ同努めている。PTイレの方にも日中はトイレへ行って頂く。	立位が取れないがトイレ介助すると排泄可能な利用者は2人対応で行い、個々の排泄サインを見逃さない気配りをしている。リハビリ、布パン、パット交換は其々適切に支援しており、失敗感をなくすことを目標としている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の方の排泄チェックを行っている。自己申告の方もいる。食事等にも工夫したりヤクルトを飲んで頂いたりし、改善出来ない時は、主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の指定はあるが、本人の希望に合わせてる様に努めている。湯加減・季節のゆず湯・バスクリン等で楽しんで頂けるように努めている。	週3~4回対応可能であり、訪問理容日には散髪後全員入浴を実施している。利用者其々の好みの湯温を把握し満足していただけるよう安全面に充分配慮し、拒否の強い人にも適切に対応出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が悪い時は、自室にて休んで頂いている。リネン交換・布団干しにて清潔を心がけている。毎日のレクの中で体操をして体を動かし安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当者が処方箋を使い、理解・管理を行っている。個々の日誌にも処方箋を挟みスタッフ全員が周知出来る様にしている。送りノートにも記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操をしたり、季節に合わせたレクを行い、ビデオ観賞やカラオケ・散歩等で気分転換をして頂いている。庭での昼食会も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	隣の保育園の行事に参加している。家族との受診による外出では外食などに出かけている。散歩などの外出も行っている。	近隣ひと回りの散歩に車椅子の利用者を一人でも多く支援していきたい気持ちが全職員にあり、増員を考えている。外食、花見、クリスマス、敬老の日等楽しんでもらえるよう事案の検討を意識付けている	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や家族の希望に合わせて、多額ではなく金銭の所持を支援。必要物品は家族、又はスタッフが買い物をして代金と引き換えにレシートを渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いて出している。かけない方は代筆で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどは室温・明るく静かな雰囲気を保てるように配慮している。生活感・季節感を味わっていただけるよう心掛けている。	共有部分は床暖房を使用している。各居室の空調管理は職員が交代で見回りを行い、換気、日当たりの配慮をしている。季節の花飾り、壁面の飾り付け等、明るい窓際のソファの設置は好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを用意し庭にもイスが設置してあります。日向ぼっこなど、気の合った入居者の方々に思い思いの過ごし方をして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた者を持ってきて頂き、協力して頂いている。必要と思われるものも可能な限り対応して頂いている。	備え付けのタンス、ベッドを使用できる。馴染みの家具の使用も可能である。その人らしさが滲み出る、くつろげる環境作りを全職員が対処できるように、周知されている現状が確認できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており居室入り口には表札をつけています。夜間トイレへの廊下は電気を付けたままにしている。		